

ドローンで水稻播種

短時間、4条打ち込み

中央市で実演会



打込条播するドローン

【山梨】中央市で米を栽培する「たとみ農園(株)」と県内で米穀を販売

する「(株)米福」はこのほど、東京のIT企業「(株)オプティム」と共同して、ドローンを利用した「水稻打込条播」の実演会を開催した。実演会には、農業委員会や市農業振興公社、県農政部、近隣JAなど約50人が参加した。

水稻打込条播は、位置情報を入力したドローンを高さ約1メートルで直線的に飛行させ、モーターを利用して4条になるように四つの打ち込み口から直播する。30坪の圃場に4条植え田植機を用いて作業を行う場合は約2時間かかるが、ドローンを使うと30分で播種が終了した。

参加者からは「身体的負担の軽減や作業の効率化は間違いない。今後の生育がどのようになるか確認したい」との声が聞かれた。

たとみ農園の井上雅博社長は「新しい技術を使うことで、農家の手助けや耕作放棄地対策につなげたい。これからも県内農業の発展に貢献していきたい」と力強く語った。



実演を見守る参加者

首都圏

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

新聞

全国農業

2023年(令和5年)

6月16日

金曜日
月4回金曜日発行